



二十六聖人

令和3年11月号

(令和3年10月31日発行)

教会だより

2021. 11 No. 341

カトリック二俣川教会 TEL 045-391-6296
<http://www.futamatagawa-cc.com/>
主任司祭：ヤコブ 姜 真 求 (カン ジング)

雨の中の森を眺めながら

カトリック教会では、毎年11月を「死者の月」とし、私たちより先だって神様に召されたすべての人のために祈ることを勧めています。これは、所謂「生者と死者との交わり」という教会の教えに基づいたことで、自らの力では自分のために祈ることすらできない死者たちのために、生きている人たちが祈ることによって、彼らが救いに与れるということです。ということで、この一ヶ月の間、私たちは亡くなった家族は勿論、自分と何のかかわりもない人たちの救いのためにも祈って、神様が亡くなった人たちをご自分の国に迎え入れてくださることを願うべきです。

さて、韓国の場合、11月2日、つまり「死者の日」には、亡くなった司祭たちのための追悼ミサが、教区の共同墓地で行われます。それで、教区の司祭たちが自分の小教区で死者の日のミサを捧げて、午後には教区の共同墓地に集まり、司教様と共に亡くなった司祭たちのためにミサを捧げます。勿論、多くの信者たちもいらっしゃってそのミサに与ります。私も韓国にいたときには、毎年、そのミサに行きましたが、その度、私より先に神様のもとに帰って行った先輩や後輩の司祭としての道を考えることになりました。というのは、そこに葬られている司祭たちの司祭としての人生が全員それぞれだったことが、改めて思い出されるからです。司祭たちが神学校に入学してから一番多く耳にする言葉がありますが、それは「どうか聖人司祭になるように。」という言葉です。神学生の時からずっと聞いてきたその言葉ですが、なかなかそうなる可能性はどんどん低くなるような気がします。司祭も人間ですし、自分に任せられた一人一人の信者の皆さんから誉められる司祭となることは大変難しいからです。ですから、「聖人となることより、聖人司祭となることがもっと難しいことでは」という思いがするときもあります。そういう思いの中で司祭としての務めを終えた先輩や後輩のお墓の前に立つと、とにかく「お疲れ様でした。」という言葉だけが口にのぼり、心から尊敬の志を表すことになります。聖人司祭になるかどうかは誰も分からないし、しかも、本当に神様に認められる司祭なのかは、神様しか分からないことでしょう。ただ、司祭として最後の最後まで頑張った人についての感謝と尊敬の気持ちになるだけです。

最近、横浜教区の司祭の黙想会に行っていました。去年からの新型コロナウイルス感染症のために今年も個人黙想会という形となりましたが、希望者は軽井沢の黙想の家で、個人的に黙想できるようにしました。2年ぶりの黙想会だったし、コロナ禍の中であまり休めなかったので、一休みとなればという心で参加しました。でも、黙想会が終わってからは教会の堅信式が予定されていたので、休めるどころか、むしろ、頭や心は複雑となり、結局、月曜日から

金曜日の日程でしたが、木曜日までにしました。そんな短い日程のなか、火曜日には雨が降り、その雨のしずくが森の色々な紅葉から落ちていて、秋の情趣がとても深く漂っていました。その風景を眺めながら、私は「そうか。この森の木はすべて自分の葉っぱから、それぞれの色の雨のしずくを落としているのだ。同じ雨に降られても、落とすのはそれぞれだ。」と勝手に考えてみました。そして、「その多様な色の雨のしずくがその森をもっと元気で豊かにしているのだ。」とも思いました。

ミサの中で、司祭は信仰の神秘を信者の皆さんとともに歌い、それから、教会が聖霊によって一つとなることや、愛の完成に導かれることを願います。そして死者のための祈りをささげ、その後、生きている私たちのために祈ります。その祈りとは、「なお、わたしたちをあわれみ、神の母おとめマリアと、聖ヨセフ、使徒をはじめ、すべての時代の聖人とともに永遠の命に与らせてください。御子イエス・キリストを通してあなたをほめたたえることができますように。」という箇所です。神様の愛と憐れみの心によらず、生きている私たちが永遠の命にあずかることはあり得ないことでしょう。私たちは皆、神様から注がれる愛と憐れみの雨をいただきながら、それぞれの味の実を結んだり、各々異なる色の葉っぱを落としたりして、人生の道を歩んでいます。そしてその実と葉っぱから、多くの人たちが神様の愛と憐れみを味わい、まさに、神様が与えてくださった「世の中」という森は、もっと豊かで美しくなるのです。そういう務めを終えてから私たちは一人残らず、神様のもとに帰っていくわけです。ですから、授けられた人生は勿論、与えられたすべての人を大事にすべきです。その人生や家族、隣人という賜物を大事にすることは、神様の愛と憐れみを学ぶこと、また、行う事でしょう。それによって「すべてのいのちが守られる」はずです。

主よ、

あなたから頂いた人生の務めを終えたすべての人に永遠の命を与えてください。

永遠の光で彼らを照らしてください。アーメン。

主任司祭 ヤコブ 姜 真求



10月教会委員会報告

【司祭】

神様は、アダムと言う最初の人間を完全な者として作って下さいましたが、アダムを助ける者を作るためにアダムからあばら骨を抜き取り、それで女を作って下さいました。アダムは自分のあばら骨を神様によって失いましたが、このあばら骨で作られた女によって、失った自分の完全性を補ってもらいました。つまり人間は自分一人では完全ではない、互いに補う合う事によって、もっと完全に豊かな者になる事が人間だと言う意味があります。

コロナ禍でマスクに顔が隠され、相手のありのままの姿が見にくくなっています。この様な状況下で私達が心を込めて行う事は、ありのままの相手を認めると言う事です。

理解し合う事、支え合う事、なにより愛し合う事で互いに成長する事が出来ると思います。

【今月の検討項目】

1. 10月24日（日）堅信式に関して
 - ・堅信式のミサへの参加は、受堅者・代父母・家族等の関係者のみとなります。
 - ・コロナ感染症の影響で「堅信勉強会」が遅れていましたが、講座回数・講座時間を工夫して、10月24日（日）に堅信式を迎える準備を進めています。受堅者は、大人5名、中高生14名となります。
 - ・堅信式は、聖歌隊3名の少人数で入祭・塗油の時・閉祭時に聖歌を歌います。聖歌を3曲と最少にし、マスク着用・窓の解放・聖堂一番後部での歌唱と感染対策に留意した奉仕を行います。
2. 今後の緊急事態宣言発出時の対応に関して
 - ・緊急事態宣言発出＝公開ミサ中止、解除＝2週間後にミサ再開の考え方を改め、今後は、緊急事態宣言が発出されても極力ミサ中止に至らない様にするには何が必要かを考え判断する事に致します。
3. 教会HP刷新委員会に関して
 - ・教会HPの更新（システムバージョンアップ）を行いますので、10月4日（月）～6日（水）は、教会HPは閲覧出来なくなります。システムバージョンアップ後は現状のコンテンツのブラッシュアップを計画しています。
4. 写真データ及び写真の管理に関して
 - ・広報委員会より、写真データ管理に関する具体的な報告がありました。写真データはクラウドを利用し広報委員会が管理しており、今後も継続する事で安全性が担保されている事が確認されました。

【その他検討確認事項】

『各委員会報告』

（典礼委員会）

- ・11月2日（火）死者の日は、1年間に亡くなられた方の写真をテーブルに置きお祈りします。
- ・聖歌隊の活動は、10月31日から奉仕できるように準備します。

（教会学校）

- ・10月31日（日）「青年と教会学校とともに捧げるミサ」で高校生と幼児の洗礼式があります。
- ・七五三のお祝いは11月28日（日）午後2時「青年と教会学校とともに捧げるミサ」の中でお祝いします。10月11日の週から申込みを始めます。（申込み開始曜日は、後日、明確にします。）

（キリスト教講座）

- ・水曜日の入門講座は、対象者がいなくなり一旦休講になります。（受講希望者がいる場合は再開します。）土曜日の入門講座は3名の求道者で継続中です。

（共同墓地委員会）

- ・9月26日に開催された、四教会の合同墓地委員会で本年の追悼ミサは以下の様に決まりました。

場所： 上大岡共同墓地 日時： 11月3日（水）10：30～ 司式： 谷脇慎太郎神父、濱田壮久神父

参加者： 墓地委員のみ（一般非公開、納骨はありません。）

*11月5日から追悼ミサの録画を youtube で2週間公開致します。（関係者へは URL を案内致します。）

(建物管理委員会)

- ・ 2021 年計画：聖堂の故障中の旧型 F F 暖房機 2 機を交換し新設する予定です。
(暖房効率改善の為)
- ・ 2022 年計画：聖堂天井蛍光灯の LED 化。(省エネと高所作業除去の為)

以上

喜寿、米寿を迎えられた方々からの声

敬老の日を迎えられた方々、本当におめでとうございます。300 名くらいの方々の中から、77 歳の喜寿、88 歳の米寿を迎えられた方々にお気持ちを聞きたいと思い、ハガキでの返信をお願いしておりました。感謝と喜びの声がたくさん届いております。ありがとうございます。



喜寿の方々から

40 代の頃、洗礼を受け、御ミサ、カトリックの皆さんと知り合い、色々な行事の手伝いをしていたのですが、ある神父様の聖書講座と出会い、私にとって、わかりやすく、心に残るお話で心の中が安らかになっていくのを感じました。この年になり、毎日、神様に感謝して、穏やかにすごしています。
(Y. S. 記)

神様や皆様に見守られながら喜寿を迎えられた事感謝致します。コロナの心配がない世の中になります様に祈りたいと思います。
(H. Y. 記)

突然の贈物うれしく受け取りました。有がとうございます。コロナ禍で身も心もストレス状態ですが、自分のために、時間を利用してます。家の片付(終活)整理をはじめ読書、そして、ゆったりとした気持で祈りの時間を過ごしております。これもお恵みと思っております。
(M. N. 記)

いつもお世話になっておりましてありがとうございます。私の中では小さな変化はありますが、だいたい、いつも通りに過しております。とはいえ、マスクがダメな私は外が苦手!おかげで足腰が弱くなり、自主トレでなんとか動いてます。

そのせいでしょうか、パラリンピックの精神が社会に根付いてほしいものですが、世の中そうはなっていないようで、悲しいニュースにがっかりです。

このコロナで良い方に向っていけるようにと願ってます。
(M. H. 記)

二俣川教会の共同体の皆様、ヤコブ姜真求神父様よりの心温まるメッセージ、喜寿の祝いのメッセージの記念品を頂き、心より感謝申し上げます。フランシスコ教皇様からのメッセージを読ませて頂きながら、あまり信仰心のない私ではございますが、年齢を重ねるごとに、ストレスに対してマイナスに考えがちになっておりました日々でございましたが、自分の歩んできた過去の記憶と共に、自分の両親、友人達、出会った人達との私の人生を神様に感謝なくてはと思っております。

昨年病気で、体力があまりないので、二俣川教会へはなかなか難しいですが、コロナが収束しましたら、山手教会の御ミサに与える日を楽しみに致しております。これからも世界の平和、皆の健康をお祈りしてまいります。乱筆乱文お許し下さいませ。
(A. S. 記)

敬老の日、年祝いの品等受け取りました。お礼申し上げます。ありがとうございました。
(S. M. 記)

このたびはお心のこもったお祝いをしていただき感謝致します。パンデミックの嵐が静まり、皆様とお会いできるまで健康に過ごしたいと思います。
(W. Y. 記)

遅くなって申し訳ありません。ありがとうございました。とても嬉しかったです。
(M. I. 記)

生きてきた歳月に感謝。謙虚な心で質素に生きて行きますよう祈ります。ありがとうございました。
(I. S. 記)

二俣川教会共同体の皆様
この度は喜寿を祝ってくださり誠にありがとうございました。温かな祈りとお心遣いに深い喜びと感動を覚えました。感謝の内に。
(N. N. 記)

ありがとうございました。昨日届き、本当にうれしかったです。残りの人生、どの様にすごそうかと、“なまけ者”の私、マリア様に倣い（習い？）少しでも努力して生活します。皆様とお会いできる日が早くきますように。
(H. M. 記)

喜寿という人生の節目に当たり教会よりお祝い頂きうれしく心より感謝申し上げます。そして改めてこの年令まで生を与えられ、今、感謝の思いで迎えることができますことは、振り返ってみれば神様がいつもそばにいて下さり、多くの方々の助け、お支えを頂き、ここまで歩いてこられたことを本当にありがたく思っております。これからも信仰の道を導きを求めつつ、平和の道具として頂くことができますよう祈り歩みたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。
(M. K. 記)

喜寿のお祝いメッセージ、記念品ありがとうございます。長年難病に悩まされ回復に向けて努力中です。これを機に9/12（日）出向き（教会）ユーチューブのミサ動画配信の操作を教わり以後利用しています。招きがあればルドビコ・YGG のコーラスの参加復帰出来ればとも思っています。
(K. M. 記)



米寿の方々から

神様のお恵みのうちに88歳を迎え、元気に暮らしております。皆様のご健康を願ってお祈りします。この度はご丁寧に記念品を送ってくださりましてありがとうございました。
(O. A. 記)

この度はご丁寧なお手紙と記念品、有難うございました。皆様とお会い出来ないなかで、お心遣い嬉しく感謝致して居ります。教皇様のメッセージ、神父様のお言葉深く心にきざみ、毎日をそれなりに元気に過せたらと祈って居ります。
(E. M. 記)

敬老の日にあたり、姜神父様からのご丁寧なメッセージをいただき、嬉しさでいっぱいです。八十路も後半となり卒業の年も近づき、神様の御恵みに感謝。
(K. S. 記)

この度は教皇様のメッセージ、姜神父様からのお心こもる美しい文字のカード、そして米寿記念のミレニアムの置き物ほかいろいろとお送りくださりましてありがとうございました。コロナ禍で自粛、我慢の生活が続き、家の中で過ごす日が多くなり淋しく思っておりましたが、教会とのつながりを改めて感じ、感謝の気もちで一杯になりました。

七十代から八十代への早さと変化、あれもこれもとできなくなることの多さに驚きます。でも嘆いていても仕方ありませんので、こんなこともできなくなるんだあ〜と初めて経験する高齢生活を楽しんで生きることにしました。お世話さまになると思いますが、よろしく願い致します。
(Y. F. 記)

この度は、米寿のお祝いのメッセージ、記念品、戴き、誠にありがとうございました。お礼の返信が遅くなり恐縮しています。教皇さまのメッセージにもありますように、三つの柱（夢、記憶、祈り）の道を通して、新たな歩みを踏み出す力が与えられると信じて、日々お祈りします。
(M. S. 記)

この度は敬老、米寿のお祝「記念品」を送って頂き有難うございました。感謝の気持で一パイです。
(B. Y. 記)



教会ホームページ（HP）の更新

10月4日から6日の3日間をかけて、教会HPの作成ソフトであるWP（ワードプレス）のversion upを行いました。この3日間、教会HPを開けると「只今更新中！」の文字が出ていたので、驚かれた方も多かったのではないかと思います。動き出したHP刷新委員会との連携でこの更新（version up）を実現することができたことを感謝いたします。

ここ何度か『二十六聖人』の中で説明して参りましたが、WPのversion upを行ったことで、セキュリティーも最高レベルではないものの、以前より上がりましたので、より安心して教会HPを運用することができるようになりました。

今後もまだまだ引き続き、HP刷新委員会にヒントやアイデアをいただきながら、HPの刷新を続けていきたいと思えます。皆さまからの、こんなHPにしてほしいというようなご意見をお待ちしております。下記アドレスまでお送りください。お願いいたします。

koho-new@futamatagawa-cc.com

広報委員会



【編集後記】

9月には敬老の日がありましたが、教会に集って皆でお祝いをすることはできませんでした。しかし、10月24日には、教会の大きなお祝いとして、司教様が来て下さり、堅信式を行っていただくことができました。堅信式は感染防止の為、参列者を減らして行われましたが、受堅者だけでなく、教会の皆にお恵みをいただいたと思えます。堅信を受けての喜びの声は来月号でお届けいたしますので、しばらくお待ちください。11月は死者の月です。先に天国に旅立たれた方々の為に、心からの祈りをささげましょう。
(N. F.)